

多様性と普遍性

【バンディーサドル】



▲設計通りのテストサンプルを乗り込んで更に削り調整。白いものが削り込みの最中のもので。



▲幾つものテストサンプルを経て右から左に徐々に理想に近づきつつあります。

▶クロスなディズナ・・・

ロード系「Dixna ディズナ」のクロスフィールド向けブランドを「DixnaCross ディズナクロス」と言います。

軽い前傾のリラックスポジションに長時間耐えられることと、路面からの振動を吸収しつつハードなペダリングを損なわない設計のサドル作りを3年程前に始めました。勿論昨今のグラベルなどオフロードも見据えた多様性を踏まえたものです。トップは耐久性のある一体型の素材を用いて、ややショートノーズ、幅は広めが基本。まずは形状が最重要なので、テストサンプルを数値上には見えないレベルで削ったりを繰り返します。但しサドルは同じ形状でもトップ生地やフォームの硬度などで乗り味がかなり変わります。この辺りのサジ加減はデータが裏付けるわけでもなく難しいところ。実走での感覚的感触に頼る部分と、一流工場の成形ノウハウにより、多くの人が設計思想に合致した心地を体感いただけるような物に仕上がっていきます。

バンディーサドル、この「バンディー」の名称は同じくディズナクロスのバンディーハンドルシリーズが基礎です。では「バンディー(Bandy)」とは何かと言いますと、当時フレアという表現が殆ど無かったころの末広がりハンドルを作った時に考えた名称で「Bandy-legged」から。外反膝的なことですが、実際は形状が発端の「バンディー」というサウンドが音的に物と合致しているような感触があったから。見栄えと音色と感触の一致・・・でしょうか。

【コンバインバーテープ】



グラベルという表現が代表するように、オンロードがMTB要素を取り入れて多様化する自転車は、ディスクブレーキの普及で急速に進化しました。バンディーサドルと共にそう言った自転車に應える物において、メカニカルと並行し感触分野も非常に大事になります。特に手に触れるところはその日のライドの充実感を左右することすらあります。グリップ力と耐久性のバランスに秀でたポリウレタンを表面に採用し、軽く柔らかいEVA素材の二層に組み合わせ(=combine)、中央部を3mmとして振動吸収性も高めています。

◀3mmの厚みに幾何学模様の段差がフィット感とグリップ感をバランスさせています。

【バンテージリム】

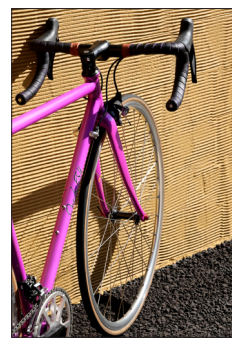


▲内幅15/19/21mmと3種類をブラックとシルバーのポリッシュ仕上げで32Hのみとしています。

▶アドバンテージなバンテージ・・・ディズナにはバンテージという名称の商品が複数あり

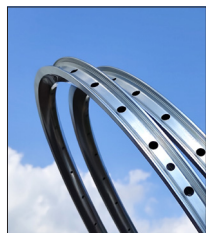
「vantage」は“優勢”と言うより“見晴良好”を多く意味しています。

世の中から消えると困ります、必要なのに・・・という話はよくあり、何とかして下さいと聴こえてきます。大河に飲み込まれ消えそうな物。リムで言えば、素材、機能、デザイン・・・。そう言ったお嘆きの貴兄貴女のために、これは探そうと言うことで、最良のバランスを持つ製品を見つけアレンジしました。材料はマンガン・ニオブ含有スーパーアロイでリムブレーキ対応、デザインはシンプルで表面はポリッシュ仕上げ。そして現代向けに内幅広くチューブレスレディも設定。モダンでクラシック・ネオなバンテージ・レット口にシック・・・そんな表現あったか知りませんが、要するに・・・いままでもこれからも、むりのないリムです。



▲世の中から消えて欲しくない「ザ・リム」な容姿。写真はその典型的な内幅15mmモデル。

【レンジャーリム】



バンテージリム同様「grunge=グランジ」ブランドからMTB向けアルミポリッシュリムを発売しました。

こちらも今や貴重となってきた26インチと現代向けに650Bを共にチューブレスレディで設計しています。

～ワンバイエス 新作のアルミフレーム情報を少しだけお届けします～

アルミCXフレーム「JFF#807z(ゼット)」

「JFF#807」を引き継いだ扱いやすくタフなフレーム。新作フォークと共に、小柄な方もバランスを崩さずに乗り



こなせるサイズも追加発表します。多くの選手が今シーズンも使用します。発表は8月末のOnebyESU webサイトに。

アルミツーリングフレーム「JFF#901」



ユーティリティ豊富な日常から旅までを気兼ねなくサポートするフレームです。JFFのバランス感をツーリングでも味わっていただこうとの思いから。発表は9月上旬のOnebyESU webサイトに。